平成２９年１０月６日

６年生の保護者各位

あま市立伊福小学校長
田　邊　孝　博

平成２９年度全国学力・学習状況調査の結果及び取り組みについて

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。さて、今年４月１８日に行いました「全国学力・学習状況調査」の結果につきましては、去る９月１２日に個人票を配布させていただきました。本校では、その結果を受け、校内検討委員会を設置し、本校児童の学力や学習状況について分析してまいりました。その概要を下記のように報告させていただきます。この結果を、学習活動並びに学校生活全般を見直す参考とし、これからの教育活動に役立てていきたいと考えています。

記

１　分析の方針

文部科学省及び愛知県教育委員会は、結果の公表については、『序列化や過度な競争にならないようにするため提供された平均値等の数値そのものは公表しない』という方針をとっています。

本校もその方針の下、学校全体の傾向を国・県の状況をふまえて分析しました。

２　全体の概況

○　全体の傾向

・　正答率については、国語Ａ・国語Ｂ・算数Ａは全国・県平均とほぼ同じ結果となりましたが、算数Ｂは全国・県平均を下回る結果となりました。

○　調査ごとの正答数の分布の傾向（全国・県と比較して）

・　国語Ａ…下位とやや上位者が多く、中位・きわめて上位者が少なくなっています。
・　国語Ｂ…下位とやや上位者が多く、やや下位・きわめて上位者が少なくなっています。
・　算数Ａ…中位の者が多く、きわめて上位者が少なくなっています。
・　算数Ｂ…やや上位・きわめて上位者が少なく、下位・やや下位の者が多くなっています。

３　「国語に関する調査」の結果から

国語Ａでは、漢字を読むことはよくできていましたが、書くことは苦手な児童が多いことがわかりました。全体的には読むことや言語に関する知識はよくできていましたが、話すこと・聞くことに関する能力が若干低かったです。

国語Ｂでは、選択式で答える設問はよくできていましたが、記述式で答える設問が苦手な児童が多かったようです。自分の考えを自由に記述する表現力に課題が見られました。

４　「算数に関する調査」の結果から

算数Ａでは、単純な計算問題等は確実に解答できている児童が多かったです。反対に小数や分数の概念を理解したり、数量関係を図示したり、考え方を問われたりする問題が苦手な児童が多かったです。

算数Ｂでは、「数と計算」領域では、ほぼ全国平均がとれましたが、「図形」の領域で全国・県平均を下回りました。また、考え方を説明する記述問題が苦手な児童が多かったです。

５　「質問紙に関する調査（生活実態調査）」の結果から

全体的には概ねとても良い結果でした。

良かった点

○　朝起きる時刻や食べる時刻などがきまっていて規則正しい生活を送ることができる。
○　自分にはよいところがあると思う。
○　読書は好きである。
○　友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
○　将来の夢や目標をもっている。
○　学校で好きな授業がある。
○　先生は、自分のよいところを認めてくれる。
○　ニュースを見たり、新聞を読んだりする。
○　授業の中では、めあてが示され、まとめもノートに書いている。

改善すべき点

○　400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う。
○　授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。
○　本を読んだり借りたりするために、学校の図書室や地域の図書館に行く。。
○　将来外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしたい。

６　改善に向けての取り組み

調査結果から、読書好きの児童は多いが、図書室や地域の図書館を利用する子が少ないことがわかりました。本校は自転車で行ける身近な地域の図書館がないこともあり、昨年度より学級文庫や学校図書館の新刊図書を購入するなど拡充・整備をしてきましたが、今後もさらなる学校図書館の充実を図り、これまでどおり「朝読書」の時間を大切にしながら、読書好きの子をさらに増やしていきたいと思います。

また、基本的な生活習慣を身につけている児童が多く、家庭学習にもまじめに取り組むことで基礎基本の定着はできつつあります。一方さまざまな角度から思考して解答したり、自分の考えをみんなの前で発表することが苦手な児童が多いことがわかりました。今後はただ「できる」だけにとどまらず、「わかり」「説明できる」児童の育成を目指していきたいと思います。

そのためにも「しっぴータイム」などコミュニケーションスキルを高める活動を定期的に取り入れ、話し合いへの意欲と技能を高めるとともに、授業の中でも小集団での話し合い活動を積極的に取り入れることで表現力を身につけさせていきたいと思っています。